

## タクシー運転手に求められる新型コロナウイルス対策 7つのポイント

沖縄県立中部病院感染症内科

沖縄県では、これまでに6人のタクシー運転手について新型コロナウイルスへの感染を診断しています。県外からの観光客が多く訪れる沖縄県では、感染リスクの高い職業であると言えます。

高齢もしくは持病のあるタクシー運転手の方は、感染した場合には重症化するリスクが高いことが分かっていますので、できるだけ観光客との接触を減らすようにしてください。具体的には、空港やホテルでの付け待ちをしないこと、観光客が多く訪れる場所での流しをしないこと、県外からのお客様の配車の求めには応じないことが挙げられます。

その他、新型コロナウイルスが発生している状況において、タクシー運転手に求められる対策を8つのポイントとしてご紹介します。

- 1) お客様に触れたり、荷物の積み込みを手伝ったりしたときは、ハンドルや自分の衣類などに触れる前に消毒用アルコールで手指消毒をしてください。アルコールの備えがないときは界面活性剤入りの抗菌ウェットティッシュでも構いません。
- 2) お客様を乗せて走行するときは、運転手は必ずマスクを着用してください。医療用マスクが望ましいですが、布マスクでも代用できます。また、お客様にもマスクを着用するように求めてください。とくに、お客様に咳などの症状を認めるときは、マスクを着用していただくことが必要です。所持していないお客様のために、マスクを準備しておくことも検討してください。
- 3) 走行中は、できるだけ窓を開けて車内の換気を心がけてください。お客様が、窓を開けることを嫌がる場合であっても、運転席側と後部座席側を少しでも開けるようにして、風の流れが生じるようにしてください。
- 4) 目的地に到着後、お客様と現金のやり取りをした後は、速やかに消毒用アルコールで手指衛生をしてください。それまでは、ハンドルや自分の衣類などを触れないことが重要です。お客様からいただいた貨幣や紙幣は汚染されている可能性があります。むやみに触らないこと。触った後は速やかに手指衛

生をするよう心がけます。

- 5) お客様が降りた後のシート、手すりなど、お客様が触れた可能性がある場所は、消毒用アルコールや界面活性剤入りの抗菌ウェットティッシュで拭ってください。食器用洗剤を100倍に薄めた液体を染み込ませたティッシュペーパーでも代用できます。拭いたあとの紙は、ビニール袋に入れて捨ててください。清掃が終わった後に手指衛生をしてください。
- 6) その日の業務を終えたら、石鹸と流水による手洗いをしっかりしてください。制服については、できるだけ頻回に洗濯してください。とくに症状のあるお客様への対応をした後は、必ず洗濯するようにしてください。
- 7) 業務の開始時と終了時には、咳や咽頭痛などの症状がないことを申告し、体温を測定して発熱がないことを確認ください。もし、何らかの症状を認めるときは必ず仕事を休んでください。かかりつけ医がいる場合には、受診すべきかの相談をしてください。

以上